

取扱説明書

この取扱説明書はご使用になる前に必ずお読みください

コンフォート3輪 スライド座面タイプ



【目次】

1. 各部の名称	2
2. 特にご注意いただきたいこと	3
3. 安全に関するご注意	3
4. 製品の使い方・調節方法	6
<1> 車体のひろげ方・折りたたみ方	6
<2> ハンドルの高さ調節	8
<3> ハンドルブレーキの操作方法	9
<4> バッグの使い方	10
<5> バッグの取り外し方・取り付け方	10
<6> 座面のスライド・座り方・立ち上がり方	12
5. ブレーキの調節方法	14
6. ご使用前の点検	15
7. お手入れの方法	15
8. 保管方法	15
9. 点検・保守	16
10. こんな時は	17
11. 仕様	18
12. 廃棄	18
13. 保証とアフターサービス	19
保証書	20

このたびは、インタージェットの歩行車をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、製品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。
介護される方も一緒にお読みいただき、正しく安全な取扱方法をご理解のうえ、ご使用ください。

取扱説明書はお読みになられた後も、いつでも見られるところに保管してください。
また、ご不明な点がございましたら、お買い求めの販売店、または弊社までお問い合わせください。
本製品は改良などの仕様変更により、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。

1. 各部の名称



- ①ハンドルグリップ(左右) …… 歩行する際に握る部分です。
- ②ブレーキレバー(左右)・駐車ブレーキレバー(左右) …… ブレーキをかける時は握ってください。
………… レバーを押し下げると駐車ブレーキがかかります。
- ③ブレーキ調節ネジ(左右)・固定ナット(左右) …… ブレーキ・駐車ブレーキの効き具合を調節します。
- ④バッグ …… 容量約11ℓのバッグで取り外しができます。保温・保冷仕様で5kgまで荷物の収納ができます。
- ⑤サイドポケット(左右) …… ペットボトル飲料や小物を便利に収納、持ち運びができます。
- ⑥前輪 …… 直径20cmの大型車輪です。360°自在に旋回し方向転換ができます。
- ⑦背もたれ …… バッグと一体になっており、クッション性があります。
- ⑧座面 …… 座面開閉リング(赤)を引っ張ると座面が回転し、車体を折りたためます。
厚さ3cmのクッション座面です。
- ⑨座面開閉リング(赤) …… リングを引っ張るとロックが解除され、座面が回転し車体を折りたたむことができます。
- ⑩座面スライドベルト …… 座面を後方へスライドさせる時にこのベルトを引っ張ります。
- ⑪後輪(左右) …… 旋回しない車輪です。横すべりを防止します。
- ⑫折りたたみフレーム …… 車体が開きロックがかかると一直線になります。
- ⑬高さ調節ボタン(赤) …… ハンドルの高さを調節する際に使います。6段階調節できます。

2. 特にご注意いただきたいこと



本製品は、歩行を支援いたしますが、加齢等により操作機能が低下し本製品が次第に合わなくなり、危険となる場合がございます。歩行・操作が困難となった場合は、本製品の使用をおやめください。

- ブレーキレバーに体重をかけながら座面から立ち上がらないでください。
座面から立ち上がる際は、必ず両手でハンドルを握り、身体を支えてください。
ブレーキレバーの破損の原因や転倒の恐れがあり、大変危険です。
- 小回りが良くききますが、片手操作・片側への重心のかけすぎは、バランスを崩し転倒の原因となります。また無理な段差の乗り越えは、絶対にしないでください。
- 本製品は座面に座ることができます。車体が完全に開き、座面ロック、駐車ブレーキがかかった状態であることを必ず確かめてください。座面を後方にスライドさせる際、必ずスライドベルトで引っ張ってください。また車体は後方向きで、背もたれ（バッグ）が背中に当たる向きに必ず座ってください。横座りや車体を折りたたんだ状態で座らないでください。転倒しケガの原因となります。
- 身長・体格に応じてハンドルの高さ調節ができます。左右のハンドルの高さは同じであるか必ず確かめてください。左右の高さが違うと操作性が悪くなり、バランスを崩し転倒の原因となります。
- 走行中は必ず両手で左右のハンドルをしっかりと握って操作してください。
- ブレーキレバーはブレーキ、駐車ブレーキの際に使用します。片方だけのブレーキ操作、駐車ブレーキ操作は絶対におやめください。反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し転倒の原因となります。必ず左右両側のブレーキを同時にかけご使用ください。また駐車ブレーキも必ず左右両側にかけてください。駐車ブレーキがかかっていない片方の車輪が勝手に動き大変危険です。

3. 安全に関するご注意

*ご使用になる前に必ずお読みください。

*ここに示した注意事項は、製品を安全にお使いいただき、あなたや他人の危害を未然に防止する為のものです。

【表示マークの説明】 *正しい取り扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

 警告	取り扱いを誤った場合に死亡または重傷にいたる可能性が想定される事を示しています。
 注意	取り扱いを誤った場合に、傷害にいたる可能性または物的損害の発生が想定される事を示しています。
 禁止	してはいけないこと（禁止内容）を示しています。
 必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。



警告

(生命にかかわるケガをする恐れが想定される内容を示しています)



禁止

- この製品は、歩行を支援する「歩行車」です。それ以外の用途には使用しないでください。
- この製品は体重100kgを超える方が使用されると、本体が破損・変形してケガをする恐れがあります。この製品の耐荷重(最大使用者体重)を超える方は使用しないでください。
- 歩行が大変困難な方、正しく操作ができない方(認知症の方や小さなお子さまなど)には使用させないでください。
- 駐車ブレーキをかけたまま走行したり、引きずったりしないでください。転倒し、ケガをする原因となります。
- 走行中、片方だけのブレーキ操作はしないでください。反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し転倒の原因となります。
- 片側のみに重心をかけて使用しないで下さい。バランスを崩し転倒の原因となります。
- 勢いをつけて段差を乗り越えないでください。転倒しケガをする恐れがあり大変危険です。またフレーム及び車輪等の損傷の原因となります。
- バッグ以外の場所に荷物を掛けたり、載せたりしないで下さい。重心が不安定でバランスを崩し、転倒の原因となります。
- 滑りやすい床面、泥のある場所、ぬかるみや水たまりでは使用しないでください。安定性が悪くなり、転倒の原因となります。
- 夜間、雨や雪、風の強い日、凍結道路など、走行しづらい時は使用しないでください。
- 坂道や傾斜のあるところで駐車しないでください。安定性が悪くなり、転倒の原因となります。
- 座面に座る場合は、車体が完全に開き座面及び駐車ブレーキのロックがかかった状態であるか、また、座面が後方にスライドした状態かを必ず確かめてください。また車体は後方向きで、背もたれ(バッグ)が背中に当たる向きに必ず座ってください。絶対に横座りや車体を折りたたんだ状態で座らないでください。バランスを崩し車体ごと倒れケガの原因となります。
- 傾斜地では座らないでください。駐車ブレーキをかけても車体が動く場合があり、大変危険です。
- 座面に人を乗せたまま移動しないでください。転倒しケガの原因になります。
- 階段やエスカレーターの上下に使用しないでください。転倒しケガの原因となります。
- 介助者は車輪の向きを変えるなど、利用者の意図していない無理な力をかけて歩行補助をしないでください。
- 踏み台としてフレームに足をかけたり、座面に上がらないでください。転倒しケガをする恐れがあります。またフレームの破損の原因となります。
- 改造・分解をしないでください。強度や耐久性が劣化して危険です。また事故の原因となります。
- 歩行車を投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。



必ず守る

- 歩行車の周りの物を取るときや、休憩などで歩行車から離れる場合は、必ず左右の駐車ブレーキを確実にかけてください。歩行車が動き事故やケガをする恐れがあります。
- 走行中のブレーキ操作は、必ず両手でハンドルを握り、左右両側のブレーキを同時にかけてください。
- 道路通行の際は必ず右側通行をしてください。また歩道を通行してください。
- 踏み切り横断の際は十分に注意してください。車輪がレールの溝にはさまる可能性があります。必ず介助者と渡ってください。
- 段差の前では一旦停止して前輪を持ち上げて乗り越えてください。
- ご使用になる前には、16ページの「点検・保守」をよくお読みいただき、点検を行なってください。点検を怠ると思わぬケガをする原因となります。

⚠ 注意

禁止

- ブレーキレバーに体重をかけながら座面から立ち上がらないでください。
座面から立ち上がる際は、必ず両手でハンドルを握り身体を支えてください。
ブレーキレバーの破損の原因や転倒の恐れがあり、大変危険です。
- 可動部（車輪、ブレーキ、折りたたみフレーム、座面折りたたみ時のフレームとの隙間）に手を挟まないようにしてください。ケガの原因となります。
- ブレーキレバーは作動方向以外に力を加えないでください。また必要以上に力を加えないでください。ブレーキレバーが変形・破損する恐れがあります。
- 走行する際には片手で操作しないでください。傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作はバランスを崩す原因にもなります。ハンドルは必ず両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。
- バッグには、5kg以上の荷物は入れないでください。また鋭利なもの、乳幼児やペットを入れないでください。破損や思わぬ事故の原因となります。
- 下記のようなところに歩行車を放置しないでください。
 - ・車道に近いところ ・人通りのあるところ ・路面に段差や凹凸があるところ
 - ・湿気の多いところ ・雨風の当たるところ ・海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
 - ・直射日光の当たるところ ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
 - ・ほこりの多い場所 ・子どもがいたずらをする恐れのある場所
 - ・非常口、消火器、消火栓の前 ・坂道 ・暑い日や寒い日の屋外
- 歩行車を火気に近づけないでください。プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど危険です。熱湯消毒についても同様です。

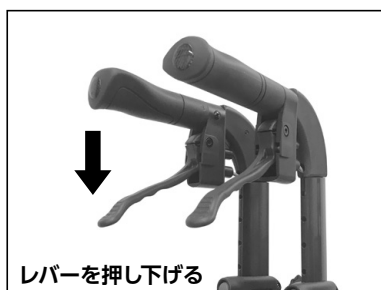
必ず守る

- ハンドルの高さは、必ず左右同じ高さにしてください。
- ブレーキは必ず手で操作してください。他の物でブレーキ操作しないでください。
- 回転している車輪に指や物等を差し込まないようにしてください。
- 傾斜地での走行は、歩行車が予想外の方向に進むなど大変危険です。また転倒の原因となります。十分に注意して走行してください。
- 発進するときや段差を乗り越えるときには、車輪が真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
- 雨ざらしにしたり、雨・雪の日の使用、ぬかるみ、水たまり等のある場所でのご使用はお避けください。車輪のサビ等により故障の原因となります。
- 次のような場所・状況でのご使用は危険です。使用を避けるか、介助者に同行してもらってください。
 - ・交通量の多い道路 ・防止柵のない側溝や路肩付近など ・凹凸の激しい道
 - ・深い砂利道や砂道 ・その他危険が予想される場所
- 夜間や、降雨時は通行者や車から発見しにくくなります。十分にご注意ください。
- 正しく操作が出来ない方は絶対に使用しないでください。
- 保管は屋内で行なってください。

4. 製品の使い方・調節方法

<1>車体のひろげ方・折りたたみ方

■ 車体のひろげ方



レバーを押し下げる

- ① 駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。



左後輪を
少し浮かしながら
車体をひろげる

- ② 左右両方のハンドルグリップを握ります。左後輪を少し浮かせながら、左ハンドルを使って車体を広げていきます。



- ③ 右ハンドルグリップを握り、座面の左下をカチッとロック音が鳴るまで押し上げます。ロック機能により座面が固定します。



- ④ 座面がしっかりとロックされ動かないか、折りたたみフレームが一直線になっているか確認してください。

⚠ 注意

⊘ 禁止

- 座面前方の車体フレーム内に手を入れないでください。
⇒ 手や指が挟まり、ケガをする恐れがあります。



手を入れない

❗ 必ず守る

- 車体を広げる前に必ず左右両方のブレーキレバーを押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。
- ロック機能により車体が完全に開いた状態であるか、折りたたみフレームが一直線になっているか必ず確認してください。

<1>車体のひろげ方・折りたたみ方

*車体を折りたたむ際は、必ずバッグの中の物を取り出してください。

■ 車体の折りたたみ方



レバーを押し下げる

① 駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。



開閉リング(赤)を軽く引っ張る

② 右ハンドルグリップを握り、座面左下の開閉リング(赤)を引っ張りロックを解除します。



左後輪を少し浮かしながら内側に折りたたむ

③ 両方のハンドルを握り、左後輪を少し浮かせます。左ハンドルを内側に折りたたんでいきます。座面が回転しながら車体が折りたためられていきます。



左右の折りたたみフレームが完全に折りたたまれた状態

④ 左右の折りたたみフレームを最後まで折りたたんでください。

⚠ 注意

⊘ 禁止

- 折りたたみフレーム、車体フレーム内に手を入れないでください。
⇒ 手や指を挟むなどの危険があり、ケガをする恐れがあります。
- 座面開閉リング(赤)を無理やり引っ張らないでください。
⇒ 部品が破損する原因になります。



座面開閉リング(赤)を無理やり引っ張らない

❗ 必ず守る

- 車体を折りたたむ前に必ず左右両方のブレーキを押し下げ、駐車ブレーキをかけてください。
- 車体を折りたたむ際には必ずバッグの中の物を取り出してください。
⇒ 車体を十分に折りたためなかったり、バッグが変形・破損する恐れがあります



ハンドルを一番低くすることによって、よりコンパクトに収納することができます。

<2>ハンドルの高さ調節

*ハンドル高さは、78cm～90.5cmの範囲で、6段階の調節ができます。

*出荷時は一番低い高さ位置に設定されています。



レバーを押し下げる

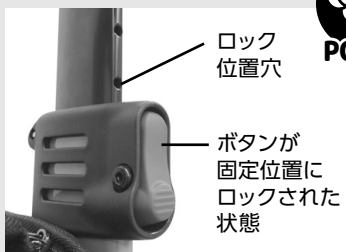
①駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下げたところでレバーは固定します。



②高さ調節ボタン(赤)を押します。



③ボタンを押しながらハンドルを上下にスライドさせます。調節固定位置にボタンをロックさせます。片方のハンドルも同じ高さに合わせます。



ボタンを押している間は、ハンドルを自由に上下スライドできます。ボタンを押さない場合は、ロック位置に高さが固定されます。



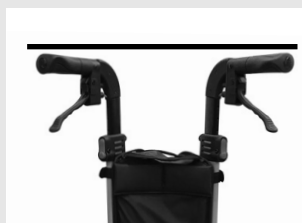
再調節にてハンドルの高さを変更する場合は、①～④を繰り返します。



④ハンドルの高さ調節をおこなった後は、左右ブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキの効きが弱い場合はブレーキの調節を行ってください。



適切なハンドルの高さは、直立し、くるぶしの位置とハンドルグリップの位置が同じ高さになるよう設定してください。



ハンドルの高さは、必ず左右同じ高さにしてください。また高さ位置が固定され、上下にスライドしないか確認下さい。

警告

必ず守る

- ハンドルの高さは必ず左右同じ高さに調節してください。
⇒左右の高さが異なると、バランスを崩し転倒の原因となります。
- 左右ハンドルの高さ調節は、ロック位置穴で固定されます。調節後、上下にハンドルがスライドしないか確認してください。
⇒ロック位置で固定されないと、歩行中にハンドルの高さが変わり、バランスを崩して転倒の原因となります。
- ハンドルの高さ調節を行った場合は、必ず左右のブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキの効きが弱い場合はブレーキの調節を行ってください。必ず左右のブレーキの効き具合が同じとなるよう調節を行ってください。
⇒効きが弱い、左右の効き具合の差で、ハンドルを取られバランスを崩し転倒する恐れがあります。

詳しくは・・・P.14「ブレーキの調節方法」へ

<3>ハンドルブレーキの操作方法

■ ブレーキのかけ方



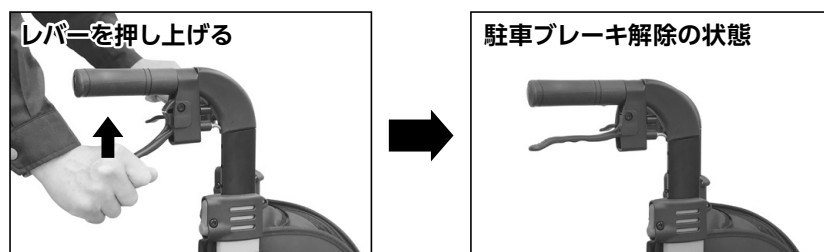
- ブレーキレバーに指をかけ、強く握るとブレーキが効きます。
- ブレーキをかけたときに左右の後輪がしっかり止まっていれば正常です。
- 握った指を離すとレバーは元に戻り、ブレーキが解除されます。

■ 駐車ブレーキのかけ方



- ブレーキレバーを押し下げ、下位置でレバーを固定させる。駐車ブレーキがかかり、後輪がロックされます。
- 下位置でレバーが固定し、左右の後輪がしっかり止まっていれば正常です。

■ 駐車ブレーキの解除



- 駐車ブレーキを解除したいときは、レバーを引き上げると解除されます。

⚠ 警告

⊘ 禁止

- 走行中、片方だけのブレーキ操作はしないでください。
⇒反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し、転倒する恐れがあります。走行中にブレーキをかける時は、必ず両手でハンドルを握って、左右両側のブレーキを同時にかけてください。
- 駐車ブレーキをかけたまま走行したり、引きずったりしないでください。
⇒転倒する原因となります。
- 傾斜地では駐車しないでください。
⇒傾斜地では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があり、大変危険です。

⚠ 注意

⊘ 禁止

- ブレーキ操作の時に、ハンドルグリップとブレーキレバーの間に指を入れないでください。
⇒指をはさんでケガをする恐れがあります。

<4>バッグの使い方

*バッグの最大積載量は5kgです。

*車体を折りたたむ際は、必ずバッグの中の物をすべて取り出してください。



バッグはファスナーの開け閉めで物を入れます。

⚠ 警告	
⊘ 禁止	● バッグには鋭利なもの、乳幼児やペットを入れないでください。 ⇒ 転落・転倒によりケガをしたり、歩行車が破損・変形する恐れがあります。 ● バッグの中には5kg以上のものを入れないでください。 ⇒ バランスを崩し転倒する恐れがあります。また歩行車やバッグが変形・破損する恐れがあります。 ● バッグ以外の場所に荷物を掛けたり、載せたりしないで下さい。 ⇒ 重心が不安定になり、転倒する恐れがあります。
⚠ 注意	
❗ 必ず守る	● 車体を折りたたむ際には必ずバッグの中の物を取り出してください。 ⇒ 車体を十分に折りたためなかったり、バッグが変形・破損する恐れがあります。

<5>バッグの取り外し方・取り付け方

■ バッグの取り外し方

*バッグを取り外す際には必ずバッグの中の物を取り出してください。



バッグは上段、中段、下段と片側3本、左右両側計6本のマジックテープでフレームに取り付けられています。



レバーを押し下げる



① 駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。

② バッグ両側上段、下段のマジックテープをはがします。

③ 更にバッグ両側上段、下段のマジックテープをリングから抜きます。

④ 最後にバッグが落ちないように支えながら、バッグ両側中段のマジックテープをはがし、更にリングから抜きます。

■ バッグの取り付け方



① 駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。



② バッグを持ち上げながら、バッグ両側の中段のマジックテープをフレームに巻き付け、リングを通してマジックで留めます。



③ バッグ両側の上段、下段のマジックテープをフレームに巻き付け、リングを通してマジックで留めます。



④ 最後にバッグ両側の上段、中段、下段それぞれ全てのマジックテープを緩みが無いようしっかりと留めなおします。バッグがしっかりと本体フレームに取り付けられているか確認してください。

⚠ 警告

⊘ 禁止

● バッグを取り外した状態で座面に座ることは絶対におやめください。
⇒ 背もたれはバッグに留められています。後方によりかかった場合、背中から倒れ、転倒してケガをする恐れがあります。

背もたれは
マジックテープでバッグに
留められています



<6>座面のスライド・座り方・立ち上がり方

■ 座面のスライド



⚠ 警告

⊘ 禁止

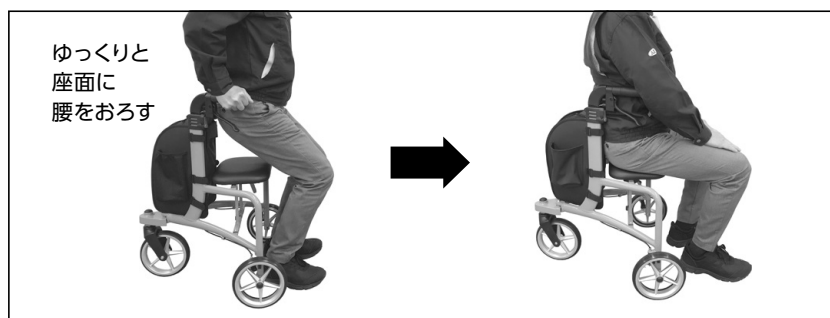
- 座面でスライドさせないでください。座面下のフレームに指が挟まり、ケガをする恐れがあります。



■ 腰掛け方



- ①駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。

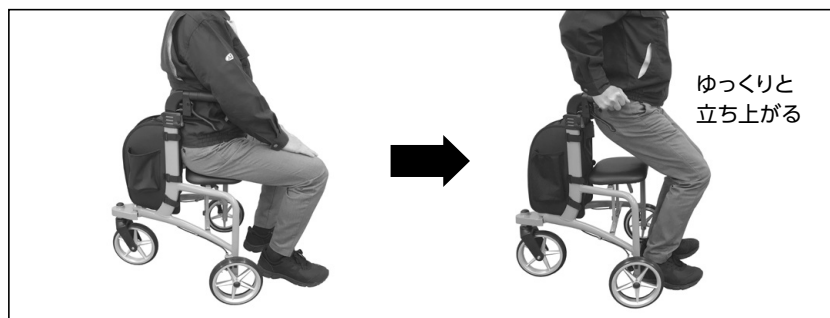


- ②座面がお尻の真下にくるように身体を車体に近づけます。後ろ向きに両手でハンドルを握り、体の安全を保ちながらゆっくりと座面に腰をおろしてください。その際しっかりと駐車ブレーキがかかった状態であるか、車体が動かないことを確かめながら下方向に腰をおろしてください。

■ 立ち上がり方



- ①駐車ブレーキをかけます。左右両方のブレーキレバーを押し下げてください。押し下がったところでレバーは固定します。



- ②しっかりと両手でハンドルを握り、体の安全を保ちながらゆっくりと立ち上がってください。ハンドルレバーに体重をかけながらの立ち上がりは絶対におやめください。必ずハンドルグリップを両手で握りながら立ち上がってください。

⚠ 警告

次のような座り方や立ち上がり方は絶対におやめください。車体が倒れケガをする原因となります。またバッグや背もたれが破損する恐れがあります。



バッグや背もたれを支えにしないでください。



片手で身体を支えないでください。必ず両手でハンドルを握り、身体を支えてください。

⊘ 禁止



車体を閉じたまま座らないでください。



横向きに座らないでください。

- ブレーキレバーに体重をかけながら座面から立ち上がらないでください。
座面から立ち上がる際は、必ず両手でハンドルを握り身体を支えてください。
⇒ ブレーキレバーの破損の原因や転倒の恐れがあり、大変危険です。
- 坂道や傾斜のあるところでは、絶対に座面に座らないでください。
⇒ 転倒の恐れがあり、大変危険です。
- ハンドルの片方のみで身体を支え、座ったり、立ち上がったりしないでください。両手でハンドルをしっかりと握り身体を支え、ゆっくりと座ったり、立ち上がってください。
⇒ バランスが崩れ転倒する恐れがあります。
- バッグや背もたれを持って座ったり、立ち上がったりしないでください。
⇒ バッグや背もたれが破損する恐れがあります。またバランスを崩し転倒の原因になります。

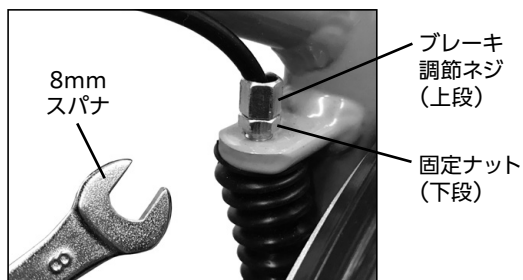
⚠ 必ず守る

- 車体に身体を近づけて腰掛けてください。また車体を後方へ押し出すように立ち上がらないでください。その際、駐車ブレーキのかかり具合を確認しながら腰掛け、立ち上がりください。
⇒ 歩行車が動き、ケガをする恐れがあります。
- 座面に座ったり、立ち上がったりする際は、必ず左右の駐車ブレーキをかけてください。
⇒ 歩行車が動き、ケガをする恐れがあります。
- 耐荷重（使用者最大体重）は100kgです。それ以上の体重の方はご使用になれません。
- すべりやすい床面では駐車ブレーキが効かず、動くことがありますのでご注意ください。
- 座面に座る場合は、座面に無理な力を加えないでください。
⇒ 座面が破損する恐れがあります。

5. ブレーキの調節方法

*ブレーキ調節前に先ずハンドルはちょうど良い高さか、左右の高さが同じかをご確認ください。必要な場合、ハンドルの高さ調節を行ってください。
⇒ハンドルの高さ調節位置によって、ブレーキの効き具合の変化が生じます。

ブレーキの調節は、ブレーキ調節ネジ(上段)と固定ナット(下段)の2つで調節を行います。工具は8mmスパナを使用します。



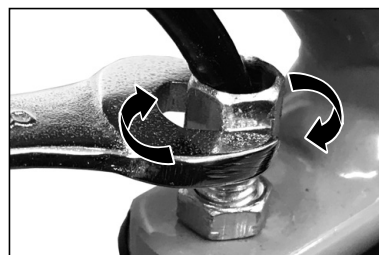
■ ブレーキの効きを強くするとき



① 8mmのスパナを使って固定ナット(下段)を反時計方向にゆるめます。



② 続いて8mmのスパナを使ってブレーキ調節ネジ(上段)を反時計方向に回します。



③ ハンドルレバーでブレーキの効き具合を確かめながら、ブレーキ調節ネジを調節します。効き過ぎた場合は、ブレーキ調節ネジを逆方向(時計回り)に回して調節してください。



④ 固定ナットを元の位置まで時計周りにしめつけロックします。



⑤ 最後にブレーキの効き具合が左右同じであるか確かめてください。左右の効き具合に差がある場合は、①～④の順番に再調節を行ってください。

⚠ 警告

⚠ 必ず守る

- ブレーキ調節前に先ずハンドルの高さ調節を行ってください。
⇒ハンドルの高さ位置によって、ブレーキの効き具合の変化が生じます。
- ブレーキ調節後は必ずブレーキレバーを操作し、左右のブレーキが確実に効くこと、左右の効き具合が同じであることを確認してください。
⇒ブレーキや駐車ブレーキの効き具合が悪い、片効きの場合、走行中にバランスを崩したり、またハンドルを取られ転倒の原因となります。
- ハンドルの高さ調節を行った際は、その都度ブレーキの効き具合を必ず確認してください。

詳しくは・・・P.8「ハンドルの高さ調節」へ

6. ご使用前の点検

* 歩行車を使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。

座面のロック確認	・ 車体を開いた際には、カチッと音がし、座面はしっかりとロックされていますか？ ・ 座面はグラグラせず、しっかりと本体に取り付けられていますか？ ・ 座面はスムーズにスライドしますか？
バッグ装着の確認	・ バッグはしっかりと本体フレームに取り付けられていますか？ ・ バッグのマジックベルトは外れていませんか？ 緩みはありませんか？
ハンドルの確認	・ 左右ハンドルの高さ位置は同じですか？ ・ 左右のハンドルは高さ調節ボタンを押すと上下にスライドし調節できますか？ ・ 左右のハンドルは高さ固定位置でロックしますか？
ブレーキ・ 駐車ブレーキの確認	・ ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか。また効き具合は弱くないですか？ ・ 駐車ブレーキがしっかりとかかっていますか。 後輪が回転したり、座面に座った状態で車体が動きませんか？
車輪	・ 車軸にしっかりと固定され、グラグラしていませんか？ ・ スムーズに回転しますか？ ・ タイヤは磨耗していませんか？
その他全般	・ ガタツキはありませんか？ ・ まっすぐに走行できますか？ ・ 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？

⚠ 警告

⚠ 必ず守る	確認を行わず、正しく作動しない状態でお使いいただくと、ハンドル操作等正常な走行ができなくなり大変危険です。バランスを崩し転倒する原因となります。また部品の破損の恐れがあります。
--------	--

7. お手入れの方法

- ◎ 汚れの除去は、市販の中性洗剤を布に染み込ませ拭き取ってください。本体の水気は乾いた布でふきとり、日陰で乾燥させてください。
- ◎ バッグは洗濯しないでください。汚れが目立つ場合は、柔らかい布で拭き取ってください。日陰で乾燥させてください。
- ◎ フレーム（車体）や車輪についた泥や砂を放置したままにしないで、必ず落としてください。
- ◎ よく絞った布で、土やほこりを拭き取ってください。
- ◎ 雨水に濡れたら、それらの水気を十分に拭き取ってください。乾いた布で水分をとり日陰で乾燥させてください。

⚠ 注意

⚠ 必ず守る	● シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。 ⇒ 変質・変色・傷みの原因となります。 ● たわし、みがき粉、硬いブラシは使用しないでください。 ⇒ 傷みの原因となります。 ● 熱湯で洗淨しないでください。 ⇒ 変質・変色の原因となります。
--------	--

8. 保管方法

- ◎ 雨ざらしにしないでください。サビや劣化の原因となります。また長期間ご使用にならない時は汚れを落とし、歩行車を折りたたんだ上、日陰で保管してください。
- ◎ 寒いとき、暑いときには屋外に置かないでください。バッグの変色、硬化の原因になる恐れがあります。
- ◎ 潮風の当たる場所、直射日光の当たる場所に保管せず、必ず屋内で保管してください。変形・変質・サビなどの原因となります。
- ◎ 下記のようなところに歩行車を放置しないでください。（事故やサビ、破損の原因となります）
 - ・ 車道に近いところ ・ 人通りのあるところ ・ 路面に段差や凹凸のあるところ ・ 湿気の多いところ
 - ・ ほこりの多い場所 ・ 子どもがいたずらをするおそれのある場所 ・ 非常口、消火器、消火栓の前 ・ 坂道や傾斜地

9. 点検・保守

【座面】

- ・座面ロックは確実にがかかりますか。
⇒座面ロックがかかり、車体が開いた状態でないと走行できません。また座面ロックがかかり、車体が開いた状態でないと座ることはできません。
- ・座面は前・後方にスライドしますか。
⇒スライドしない場合、歩行時に座面がひざにあたり、座位時は大変窮屈になります。
- ・本体にしっかりと取り付けられていますか。グラグラ動きませんか。
⇒座面下の固定ネジが緩んでいたらしっかりと締めてください。

【ハンドル】

- ・高さ調節ボタンを押すとハンドルは上下にスライドし、調節できますか。
⇒高さ調節ボタンを押してもハンドルが上下にスライドしない場合、使用者の適切な高さ位置に調節することはできません。
- ・高さ調節ボタンは、固定箇所ですっきりとロックがかかりますか。またガタガタと緩みはありませんか。
⇒調節固定箇所ですっきりとロックがかからない場合、使用者の適切な高さにハンドルを固定することができません。またロックがかかってもハンドルの緩みがある場合、ハンドルがぐらつき大変危険です。

【本体のがたつき】

- ・ネジ、ボルト、ナットの緩みはありませんか。
⇒緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。
- ・ネジ、ボルト、ナットを締めてもすぐ緩む、締まらないなどの不具合はありませんか。
⇒車体のがたつき、部品の破損、欠損につながり製品が正常に機能しなくなる恐れがあります。

【ブレーキ、駐車ブレーキ】

- ・ブレーキの効き具合は悪くありませんか。
⇒ブレーキ調節を行ってください。
- ・左右のブレーキのかかり具合は同じですか。
⇒ブレーキのかかり具合が左右同じとなるようにブレーキ調節を行ってください。
- ・左右両方の駐車ブレーキはしっかりとかけられますか。
⇒効きが悪いときには、ブレーキ調節を行ってください。

【車輪】

- ・水平な場所で車体が前後左右に傾いていませんか。
⇒タイヤゴムの摩耗、フレームの歪みや・ネジ、ボルト、ナットの緩みが考えられます。バランスを崩し大変危険です。
- ・車輪はしっかりと固定されているか、変形や磨耗はありませんか。
⇒各車輪がしっかりと固定されスムーズに回転するか、ごみが付着していないか、前輪がスムーズに首振りするかを確認してください。走行中にバランスを崩す原因となります。また車輪が外れる原因になり大変危険です。

【ハンドルグリップ】

- ・ハンドルグリップはしっかりと固定されていますか。
⇒ハンドルグリップがグラグラ動いたり、回転したりする場合はハンドル操作の際バランスを崩し大変危険です。

【異音発生】

- ・音鳴りがしませんか。
⇒異音がする場合、どこでその音が発生しているかを確認してください。

【消耗部品の交換】

- ・消耗部品の摩耗や変形、破損はありませんか。
⇒車輪、ブレーキワイヤー等は消耗部品です。異常や磨耗が発見された場合には交換が必要です。（消耗品については、19ページ「保証とアフターサービス」項目4、消耗部品をご覧ください。）

⚠ 警告



必ず守る

異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して、お買い求めの販売店、又は弊社へご相談ください。

10. こんな時は

状況	原因	対処方法
・ブレーキ、駐車ブレーキが効かない ・ブレーキ調節ができない	ブレーキワイヤーの断線や折れ曲がり	ブレーキワイヤーの交換 (お買い求めの販売店へ)
	タイヤゴムの摩耗	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
	車輪の破損	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
・座面のロックがかからない	ロック装置の部品の破損、欠損	ロック装置の修理 (お買い求めの販売店へ)
・座面がスライドしない	座面レール金具の変形	座面レール金具の修理 (お買い求めの販売店へ)
・高さ調節ボタンを押してもハンドルが上下にスライドしない ・高さ調節ボタンが固定箇所 でロックがかからない ・ハンドルがぐらぐらと動く	高さ調節ボタンのネジが緩んでいる	高さ調節ボタンのネジを しっかりと締めてください
	高さ調節ボタンの破損	高さ調節ボタンの交換 (お買い求めの販売店へ)
・車輪の回転がスムーズでない ・車輪固定ネジを締めても グラグラする ・走行時の直進性が悪い	ごみの付着	ごみを取り除いてください
	車輪の破損、車輪ゴムの片べり	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
・水平な場所でも歩行車全体 が前後左右に傾く	タイヤの摩耗	車輪の交換 (お買い求めの販売店へ)
	ネジ、ボルト、ナットの緩み フレームの歪み	ネジ、ボルト、ナットを締めてください
		フレームに歪みが生じた場合、これ以上お 使いになることはできません。(お買い求め の販売店へご相談ください)

警告

 必ず守る	破損・異常が発生した場合は、そのまま使用せずお買い求めの販売店にご連絡の上、点検・修理を受けてください。
---	--

11. 仕様

製品名	コンフォート3輪 スライド座面タイプ
型番	CZS-57A

項目	仕様	
幅	57cm	
奥行	60cm	
高さ	78cm～90.5cm 6段階調節／2.5cmピッチ／高さ調節：プッシュボタン式	
折りたたみ幅	28cm	
座面高さ	48cm	
座面寸法	幅31cm×奥行22cm	
重量	約7.4kg	
車輪径（前輪・後輪）	20cm	
バッグ寸法・仕様	幅21cm×奥行23cm×高さ38cm 三角形状／容量約11ℓ／保温・保冷仕様／着脱可能／サイドポケット付き	
耐荷重（最大使用者体重）	100kg	
制動 兼 駐車ブレーキ	ループブレーキレバー、ドラムブレーキ	
材質	本体フレーム	アルミニウム
	ハンドグリップ	熱可塑性エラストマー（TPR）
	車輪	タイヤゴム：ポリウレタン（PU） ホイール：ポリプロピレン（PP）
	バッグ	ポリウレタン（PU）
	背もたれ	ポリウレタン（PU）
	座面	ナイロン
	座面開閉リング	ポリアミドナイロン樹脂（PA）

*記載の重量や寸法は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

12. 廃棄

各自治体により分別方法が異なることがありますので、それぞれの指示に従って処分や廃棄を行なってください。

13. 保障とアフターサービス

1. 保証書

この製品には保証書をお付けしております。

＜ご注意＞弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、
無償にて修理を行うことをお約束するものです。

2. 保証対象とその期間

お買い上げ日より1年間（消耗部品を除く本体）

3. 保証期間後

お買い求めの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有償修理させていただきます。

4. 消耗部品

・車輪 ・ブレーキ式 ・背もたれ ・座面 ・車輪ベアリング
・ハンドルグリップ ・バッグ ・座面開閉リング

5. 補修用部品の最低保有期間

弊社はこの商品の本体製造打ち切り後、5年間保有しています。

補修用部品とは、消耗部品を含むその製品の機能を維持するために必要な部品です。

6. 本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになるときは、必ず本書もあわせてお渡しください。

購入された方以外の不特定多数の方がご利用になる場合は、保証対象外となります。

7. 一度使用したものは、原則として製品のお取替えはできません。

＜お願い＞異常や不具合が見つかったら使用を中止して、すぐにお買い求めの販売店までご連絡ください。

コンフォート 3 輪 スライド座面タイプ 保証書

取扱説明書の記載内容に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無償修理いたします。
製品と本書をご持参のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。
製品の保管場所での出張修理や製品輸送の場合は、出張料や輸送費などの実費を申し受けます。

品名	コンフォート 3 輪 スライド座面タイプ	型 名	CZS - 57A
※お買い上げ日	年 月 日		
保証期間と保証対象	本体お買い上げ日より 1年		
※お客様お名前		お電話番号	
ご住所	〒		
※販売店名			
ご住所	〒		

(印)

※印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

<ご注意>

- 保証の適用除外となる場合（保証期間内であっても次の場合には有償修理となります）
 - ①製品の本来の使用目的に従わずして生じた故障・破損。
 - ②改造や不当な修理による故障および損傷。
 - ③弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損。
 - ④ご使用による消耗品および取扱不注意による破損。
 - ⑤火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、および公害、塩害、煙害、ガス害（硫化ガスなど）、などによる故障および損傷。
 - ⑥お取り扱いの不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損。
 - ⑦一般に歩行車が通行しない場所、または特殊な状態での使用による破損。
 - ⑧取扱説明書に従わずして生じた故障破損。
 - ⑨取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障破損。
 - ⑩本書にお買い上げ年月日、お客様名および販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 本書は盗難・火災などの不可抗力以外で紛失された場合は、
再発行いたしませんので、大切に保存・保管してください。

※お客様にご記入いただいた記載内容は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただきます場合がございますので、ご了承ください。

※この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。
従って、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

IJ2607-CZSV2

製造・発売元



株式会社 インタージェット AIJ福祉事業部

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 2 丁目 7-38 TEL : 06-6393-3622 FAX : 06-6393-3822

<http://www.aij-osaka.com>